

令和5年度 学 校 評 価 報 告

草加市立川柳小学校
(令和6年2月2日作成)

1 学校教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・かしこく (進んで学ぶ子) ・なかよく (明るく思いやりのある子) ・たくましく (健康でたくましい子) 	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果(○)と課題(●)
<p>○目指す学校像：</p> <p>「子供たち一人一人を大切にし、 笑顔と夢あふれる川柳小」 ～開校150周年の歴史と伝統を継承・発展させ、 新たな川柳小の教育を創造する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子供に力をつける学校 (主体的に学ぶ力の育成) ・よさを認め、伸ばす学校 (自己肯定感・自己有用感の向上) ・安心・安全で潤いのある学校 (すべての子供が居がいを実感) <p>○学校経営重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びを育む授業づくりの推進 ・学力(読む、書く、聴く)、体力の向上 ・学習規律の徹底・家庭学習の習慣化 ・安心・安全な学校環境づくりの推進 ・いじめ、不登校対策の徹底 ・心の教育の推進・充実 ・幼保小中を一貫した教育の推進 	<p>○学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、教職員一丸となって取り組むことができた。校務改善を図り、教職員の在校時間も削減できている。</p> <p>○校内課題研修「学ぶ喜びを味わわせる国語科授業の創造 ～読解力を高める説明的な指導法～」を研修主題として実践を重ねてきたことで、相手意識・目的意識をもった授業改善、系統的な指導法を取り入れた授業展開の工夫を進めることができた。</p> <p>○生徒指導委員会を「生徒指導・特別支援・教育相談委員会」として、様々な課題を要する児童の情報を共有できる場とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で進んだ業務の精選との兼ね合いを図りながら、適切な教育計画の作成、確実な教育活動の実施を、全教職員一丸となって取り組んでいく。 ●引き続き、国語科の校内研修に取り組んでいく。児童に基礎基本が確実に定着し、学力向上につながるよう、教師一人ひとりの更なる指導力向上を図っていく。 ●長欠児童や不登校児童を減少させるため、引き続き組織的に対応にあたり、必要に応じて関係機関との連携を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、教職員一丸となって取り組むことができた。</p> <p>○学校行事や業務の精選など、校務改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●負担軽減と教育の充実が両輪の輪となるよう、更なる改善に努めていく。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<p>○校内課題研修として「学ぶ喜びを味わわせる国語科授業の創造 ～文学的な文章の指導における つけたい力の明確化～」を研修主題として実践を重ねてきた。学習過程の重点を意識した指導・評価の工夫を授業に取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上には学年のばらつきもあった。更なる授業改善と学力向上につなげるための校内研修を進めていきたい。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○教職員を対象とした不審者対応訓練など、より実践的な訓練を行えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大防止に向けて、適切な対応をしていけるようにする。

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○倫理確立委員会を定期的実施したことで、教職員の事故防止に対する意識向上が図られた。 ●施設設備の異常に対しては、修繕に向けて対応中である。
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会を学期に2回、計6回開催し、学校経営への説明をしたり、学校運営への助言を頂いたりした。 ○学校だより、週予定表の配付、定期的なホームページの更新、情報連絡システム「コドモン」「すぐー」を活用した家庭との連携、ありがとうの会（感謝の会）等を通して、家庭・地域に学校の様子を知らせることができた。 ●引き続き、学校へ保護者や地域の方を招く機会を増やしていきたい。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携乗り入れ授業や1日体験入学を通して、6年生児童と中学校との関わりができ、児童の進学への不安の軽減に努めた。 ○幼保小連絡会を通して、情報交換や1年生の授業参観を行うなど、交流を図れた。 ●交流給食等、コロナ禍以前の取組を再び行えるよう、今後検討していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書に改訂による年間指導計画の見直しを行い、計画的に作成できた。 ○必要に応じて学校行事をコロナ禍以前に戻すなど、精選を進めながら学校行事を実施してきた。 ●今後も行事や日課等の見直しを通して、適切な授業時数を確保し教育目標の具現化に努める。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の校内課題研修を中心とした校内の取り組みが、教師の教科指導へ理解の深まり、児童の深い学びにつながった。 ●授業改善が児童の学力向上につながるよう、基礎基本が確実に定着するよう、教師一人ひとりの更なる指導力向上を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業で高木くみ子先生をお招きし、研究授業・協議会を行ったことで、教職員全体の道徳科指導への理解が深まった。 ●授業計画や評価の見直し、家庭への啓発を図り、更に充実した道徳教育が行えるよう努める。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業者とALTとが連携を図り、充実した授業を行えた。 ○高学年では教科担当が授業者となり、専門性を生かした質の高い授業を行えた。 ●授業計画や評価の見直しを行い、より確実な指導力を身につけていく。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で実施できていなかった「川っ子友だち班遊び（異学年交流）」を再開した。高学年児童が下級生をリードするなど、活躍の場を増やすことができた。 ○委員会活動では、各委員会が自ら課題を見つけ、より良い学校にするための活動に主体的に取り組むことができた。 ●児童の自主性を育むための指導の充実をより一層図っていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の活用が更に進み、調べ学習や発表など、様々な形に活用が広がっている。 ●地域人材の活用がなかなか進まなかった。コロナ禍以前に戻せるよう、年間指導計画の見直しや、地域人材の掘り起こしを行う。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導主任を中心に、全教職員が共通理解を図り、チームでの対応・情報共有及び積極的な生徒指導を充実させることができた。 ○いじめ重大事案に認められるものはなかった。 ○教育支援室、児童相談所、SSWなど、関連機関と適切な連携を取ることができた。 ●引き続き、長期欠席・不登校児童の減少に向けて、必要に応じてSSWや関係機関との連携を図りながら、組織的に対応にあたる。

⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<p>○キャリアパスポートを活用し、家庭と連携しながら児童にふり返りをさせ、1年間の成長を確認できた。</p> <p>●各学年の実態に応じた活動計画になるよう、学級活動や総合的な学習の時間と関連させ、改善を図っていく。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○特別支援学級と通級活用児童には、個別の教育支援計画を作成し、適切に指導を行えた。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心に、就学相談や支援を計画的に行うことができた。</p> <p>●各学級に在籍する配慮を要する児童に対して、今後も指導体制の充実を図っていく。</p> <p>●特別支援学級児童の通常学級への交流には、時間数や内容について更に検討を深めたい。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	B	<p>○学校司書や中央図書館と連携を密にし、図書室の整備に努めることができた。</p> <p>○朝読書や、ボランティア・担任による読み聞かせ等を通して、読書に親しむ機会を設けられた。</p> <p>●家庭での読書習慣をもたせるなど、進んで読書をする姿勢を今後も育てていく。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○日常的にクロムブックや大型テレビを活用した授業を実施できるようになり、児童の学習理解を深められた。</p> <p>○児童間の活用も進み、調べ学習だけでなく、スクールタクトやスライド機能を使っての発表など、活用が広がってきている。</p> <p>●教員によるICT機器の活用に差がある。研修を通して活用の幅を広げたい。</p> <p>●情報モラルやネットリテラシーといった、児童の使い方に対する指導を進めていく。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○夏季休業中の研修として、川村女子学園 内海 崎貴子先生をお招きして「性の多様性と人権教育」について講演会を実施し、理解を深めた。</p> <p>○人権研修会や出張報告を通じて、人権を尊重した教育の推進をした。</p> <p>●定期的な校内研修の充実を進めていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表に向けた計画立案 ・教職員の共通理解・共通行動 ・地域や保護者、諸機関との連携 	B	<p>○国語科の授業実践や学力向上研修、国語・算数の「川小スタイル」による授業、パワーアップタイムや家庭学習の充実といった取組を通して、草加市学力・学習状況調査では、国語は市平均に近い結果が得られた。</p> <p>●学年によっては算数や理科は市平均を下回った。国語科の取組を継続させるとともに、取組の教科を広げていく。</p>
	②保護者への理解・協力への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・懇談会・個人面談等での意見 ・保護者アンケートの結果 	A	<p>○保護者アンケートの学校に関する項目では、学校への肯定的評価が95.3%となり、保護者との信頼関係が築けてきている。</p> <p>●今後も、理解を得られるような教育活動を行い、それらを発信していく。</p>
	③開校150周年を記念した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・記念行事・式典の実施に向けた計画立案及び当日の運営 ・児童への歴史と伝統を継承する意識付け 	A	<p>○6月に児童向けに「150周年を祝う日」を実施した。記念誌作成やバルーンリリース、お祝い給食で、150周年記念の意識付けができた。</p> <p>○11月に「150周年記念式典」を実施した。「150周年の感謝を伝える」をテーマに、児童を主体に発表を行い、感謝の気持ちを伝えられた。</p> <p>●引き続き、川柳小学校の歴史と伝統を伝えられるよう、指導していく。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、教職員一丸となって取り組むことができた。学校行事はコロナ禍以前に戻すことのできたものもあった。また、会議の精選など、校務改善を図れている。
- 各種たよりやホームページ等を通して、学校の様子や児童の姿などの情報の発信に努めた。
- 校内課題研修として「学ぶ喜びを味わわせる国語科授業の創造 ～文学的な文章の指導における つけたい力の明確化～」を研修主題として実践を重ね、学習過程の重点を意識した指導・評価の工夫を授業に取り入れた。
- 倫理確立委員会を重ね、教職員の不祥事防止に向けた服務意識が高まった。
- 開校150周年を記念した、「150周年を祝う日」「150周年記念式典」を実施した。式典では「150周年の感謝を伝える」をテーマに、児童を主体に発表を行い、感謝の気持ちを伝えられた。

6 次年度の改善策

- まだ全ての学校行事・教育活動等をコロナ禍以前に戻せてはいない。業務の精選との兼ね合いを図りながら、必要な行事や地域人材の活用、保護者・地域の方を学校に招く機会を増やしていく。
- 引き続き、学力向上に向けた校内研修に取り組んでいく。児童に基礎基本が確実に定着し、学力向上につながるよう、教師一人ひとりの更なる指導力向上を図っていく。
- 長欠児童や不登校児童を減少させるため、引き続き組織的に対応にあたりるとともに、必要に応じて関係機関との連携を図る。